

カセサート大学短期留学報告書(8/8-8/22)

獣医学群獣医学類 5 年 三田玲

私は 2026 年 8 月 8 日から 8 月 22 日までの 2 週間、カセサート大学の短期留学プログラムに参加しました。参加のきっかけは、同じ伴侶動物内科学ユニットの友人から 2 週間の短期留学の機会があると聞いたことです。当初は 3 か月間の留学しか知らなかったため、2 週間であれば参加できるのではないかと考え参加を決めました。実際には大学の実習日程との重なりもあり、出発直前まで迷いましたが、プログラムを終えた今となっては、「いつまたタイに行こうか」と思い描くほどにはタイの虜になりましたし、行って本当に良かったと心から思います。

2 週間はあっという間でしたが、カセサート大学の先生方が日本では経験することができないような素晴らしい実習内容を用意してくださり実りある期間となりました。

以下、この期間のスケジュールです。

Schedule for RGU Short-term Training at Faculty of Veterinary Medicine, Kasetsart University August 10-21, 2026							
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat Aug-08	
						● Arriving at Suvarnabhumi TG671/ 15:30 ● Dinner at Shopping mall ● check-in (International dormitory KPS)	
Aug 9	Aug 10	Aug 11	Aug 12	Aug 13	Aug 14	Aug 15	
AM 9:30-12:00 • Orientation • Faculty/ campus tour	Aquatic Medicine Dr.Theeraporn and staff 08.30 am.	Aquatic Medicine Dr.Theeraporn and staff 08.30 am.	free time (Public holiday in observance of National Mother's Day)	Kamphaeng Saen Veterinary Diagnostic Center	Kamphaeng Saen Veterinary Diagnostic Center	free time	
PM free							
Aug 16	Aug 17	Aug 18	Aug 19	Aug 20	Aug 21	Aug 22	
AM				Equine unit	Presentation, Closing Ceremony/Animal Hospital tour (Dr.Tawin)	Departure: Suvarnabhumi Airport VZ570 (20:00) 4 students TG670 (23:55) 2 students	
PM	free time	Exotic /Wildlife/Raptor Rehab center	Exotic /Wildlife/Raptor Rehab center	Equine unit	check-out (15:00) /go to BKK and check-in (RECOFTC)	Free time	

Remark* Aug 20th /15:00 move to Bangkok

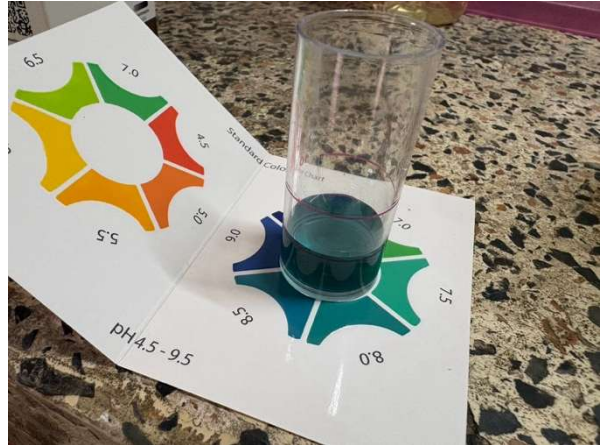
1. Aquatic Medicine

魚類やエビの飼育環境について座学で学んだ後、エビ養殖場を訪問して実際に水質検査を行いました。これまで魚病について学ぶ機会は限られていましたが、疾病を考える上でまず飼育環境や水質を適切に管理することが重要であると学びました。

また、カセサート大学の学生とのグループディスカッションでは、魚やエビのアンモニアに対する感受性などについて意見を交わしました。英語で専門的な内容について議論することは難しく、自分の知識と英語力の不足を強く実感しました。一方で、カセサート大学の学生は英語が母語ではないにもかかわらず、分からないことがあっても積極的に発言し、議論を進めていました。その姿勢から、正確な英語を話すことだけを意識するのではなく、自分の考えを伝えようとする姿勢こそが重要だと学びました。



エビ養殖場にて



エビ養殖場で pH 濃度測定を実施

2.Crocodile Farm

実際にワニが飼育されている檻の中に入り、卵探しを体験しました。飼育スペースの中で土を掘り、約 10 個の卵を見つけましたが、残念ながらすべて死亡していました。その後、孵卵器で管理されている卵から、殻を破って孵化するワニを取り出しました。生まれたばかりのワニは温かく生き生きとしており、非常に心に残っています。これほど近くでワニを観察し触れる機会は日本では得られないため貴重な経験となりました。



亡くなっているワニの卵の写真



ワニの卵を割り取り出している様子

3. Veterinary Diagnostic Center

キニヨン染色法を用いた抗酸菌（Mycobacterium 属）検査の手技を学び、実際にエビの検体から菌を確認しました。翌日はPCR 検査を実施し、大学で学んできた基礎科目の知識が臨床現場で実際にどのように診断に利用されているかという過程を学ぶことができました。



Mycobacterium 属が赤く染色されている

4. Exotic/Wildlife/Raptor Rehab Center

カメ、イグアナ、インコ、カラス等の身体検査や糞便検査を行いました。自覚症状を表現しない野生動物において、糞便検査をはじめとする基本検査がいかに重要な情報源となるかを学びました。

ゾウの診療では、跛行のある個体にレーザーを当てながらマッサージを行い、バナナに薬を混ぜて投薬しました。

Raptor Rehab Center では身体検査を行い、実際に保定を体験しました。猛禽類は爪が最も危険であると教わり、動物と人間両方の安全を確保しながら足の付け根や首の付け根を適切に保持することの重要性を学びました。



Raptor Rehab Center にて



蠕動運動を促進するために揺さぶられている亀

5. Equine Unit

各種症例の見学を行いました。中でも 10 年間リンパ管拡張症と戦い続けてきた馬の安楽死について議論したことが、最も強く心に残っています。苦痛から解放するための苦渋の決断を目の当たりにし、胸が締め付けられるような衝撃を受けました。治療を続けることは最善とは限らず、動物の生活の質や家族の思いなど様々な要素を考慮して判断する必要があると痛感しました。



全身麻酔中の馬

【現地での生活】

1. 異文化交流

この期間中、強く感じたのはタイの方々は底なしに優しいということです。特に印象に残っているのは、友達の自転車が動かなくなって路上で立ち往生していた際、わざわざバイクを降りて修理してくれたことです。また、お店の前で注文を迷っていると「日本語が少し話せます」と声をかけて注文を手伝い、商品が届くまで一緒に待ってくれた方もいました。カセサート大学の先生にも食事や観光に連れて行っていただき、その温かさに触れるたびに、日本に帰ったら、もっと人に優しい人間になろうと決心しました。

また、11 月に酪農学園大学へ交換留学に来る予定の学生たちが、試験期間中にもかかわらずたくさんのお土産を持って会いに来てくれたこともとても嬉しい思い出です。

2. 安全管理

バンコクを訪れた際には、観光客を狙った詐欺に遭遇しそうになりましたが、同行していた友人が以前受けたことのある手法と同様だったので、きっぱりと断ることができました。また、過剰なチップを要求された場面もあり、友人として気が緩んでいた自分を反省し、気を引き締め直すきっかけとなりました。

タイの人々の温かさに触れる一方で、日本とは異なる環境で生活するためには、周囲の状況を自分で判断する力が不可欠であると学びました。

3.食文化

初日の夕食のパッタイがかなり辛く、今後の食生活がとても心配になりましたが、結果的に滞在中の食事はどれも美味しく、安く、毎日の食事が本当に楽しみでした。

最も美味しかった料理はバンコクで食べたプーパッボンカレーです。揚げたカニと卵が入ったカレーで、辛くなく絶品でした。

また、タイの伝統的なデザートであるロッチェーサイマイ(クレープの生地のコシのあるわたあめを包んだようなお菓子)も初めて知り、独特の食感が癖になりました。タイ料理は辛さがさえ自分に合えば、日本にも親しみやすい味が多く、食事に困ることはありませんでした。



左からカオマンガイ、ロッチェーサイマイ、フローズンヨーグルト

おわりに

今回の短期留学を通して、これまで触れる機会がなかったエビ、ティラピア、ワニ、猛禽類、ワラビー、馬、ゾウなどを観察させていただき、獣医師が関わる動物種の幅広さを実感しました。同時に、英語で専門的な内容を理解し意見を伝える力が、自分にはまだ不足していることも明確になりました。しかし、分からないことがあっても KU の学生や先生方に質問し、周囲と協力しながら学ぶことで、言語の壁を越えて学ぶことができました。

また、一緒に参加した友人たちと2週間生活を共にする中で、より一層仲を深めることができました。心から行ってよかったと言えますし、自分の人生においてかけがえのない経験となりました。

最後になりますが、このような素晴らしい機会くださりサポートしてくださった先生方、学生の皆様方に心より感謝申し上げます。